

関連項目：教育活動プラン④

児童主体の異学年グループ活動の推進

目的

年間8回の色別活動（なわとび・歌声・ゲームなど）を主体的に企画・運営することを通して、自尊感情を高めたいと考えました。また、活動後の振り返りを大切に、PDCAサイクルで課題解決を目指し、協力することのすばらしさを味わわせることにも重点を置きました。

内容

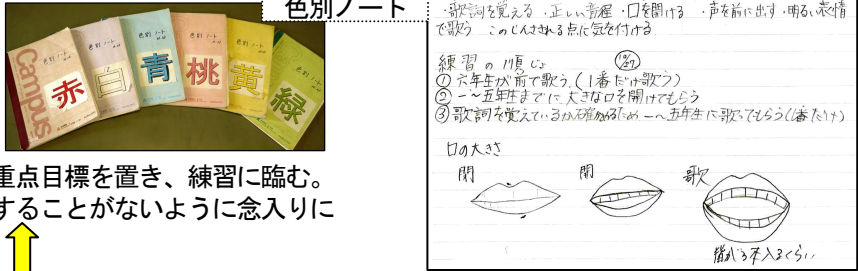
● 年間計画への位置づけ

月	活動内容
4	① 大麻山ハイキング…大麻山を色別チームで登山し、キャンプ場では1年生歓迎の集いを行う。
5	② 色別給食…運動場でチームごとに場所を決め、ふれ合いながら給食を食べる。また、食事後には6年生が企画したなかよし遊びを実施する。
6	③ 第1回なわとび大会…8の字跳びと一斉大縄跳びに分かれ、合計ポイントで勝敗を競う。
7	④ 色別ゲーム大会…運動が苦手な児童でも楽しむことができ、練習が積み上げとなって成果に表れるゲームを6年生が考え、合計ポイントで勝敗を競う。
8	⑤ 運動会…入場行進、リレー、玉入れ、綱引き、応援合戦を色別得点種目とし、合計ポイントで勝敗を競う。
9	⑥ 色別読み聞かせ…上学年の児童が下学年の実態にあった本を選定し、練習を重ね、分かりやすく読み聞かせをする。
10	⑦ 色別対抗歌声コンクール…課題曲を設定し、音程や表情、声の大きさなどを判定基準に審査し、順位を決定する。
11	⑧ 第2回なわとび大会…第1回なわとび大会の種目に加え、二重跳びや時間跳びなどの個人種目を設け、団体種目と個人種目の合計ポイントで勝敗を競う。

● PDCAサイクルによる課題解決 <第2回 色別対抗歌声コンクールの児童の意識の流れ>

① 採点基準を基に、練習計画を立てる。<Plan>

<基準> ①歌詞
②音程
③口
④声
⑤表情



○6年生は、練習機会ごとの重点目標を置き、練習に臨む。
○練習中に6年生同士が相談することがないように念入りに話し合う。

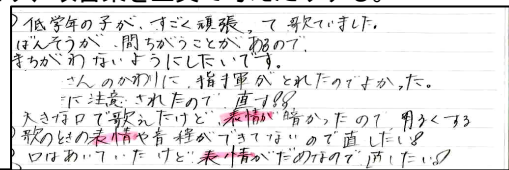
② グループで種目に分かれて練習をする。<Do>

○6年生が前に出て、口の開け方や表情の手本を見せる。
○リズムが取れない下級生に、手拍子で支援をする。
○音楽専科の先生に、課題等を聞き、それを、練習の場で重点的に練習する。

<Action>


③ 練習の振り返りをする。<Check>

○下級生の技能的な反省だけでなく、6年生のリーダーとしての動きに問題はなかったかを話し合う。
○色別グループごとに反省を発表し、悩みを共感し合ったり、改善策を全員で考えたりする。



④ 色別対抗歌声コンクール本番 <Action>

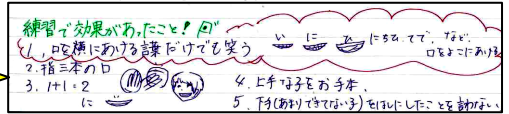
○他のチームの歌声に熱心に耳を傾け、自然と拍手を贈る児童がたくさんいた。
○チームの努力の過程を認め、満足した表情をどの児童も見せていた。



⑤ 振り返り活動 <Check>

○練習方法を工夫してくれた6年生に感謝の気持ちを伝える。
○次の色別活動に向けての目標を確認し合う。

<<活動から学んだ練習のコツ>>



成果

6年生のリーダーとしての資質が向上し、互いに思いやる心が学校中に自然と広がってきています。6年生があこがれの存在になり、全校生が前向きに授業や学校行事に取り組む姿勢が見えます。3学期に5年生との引き継ぎができればさらに基盤が整うと思います。